



# 国際的な視点で社会課題に向き合う ～多様性を共に支えあう社会をつくる～

一般財団法人 北海道国際交流センター 事務局長 池田 誠

## 北海道発、草の根ホームステイが 全国へ広がる

1979年夏、16名の留学生が北海道七飯町の農家に2週間ホームステイをした「国際交流のつどい」。そこから南に広がり、1981年の鹿児島「からいも交流」、1983年の佐賀「地球市民の会」が生まれました。さらに、留学生ホームステイは全国に広がり、国際理解に欠かせない事業となりました。

その草の根国際交流をスタートした七飯町は、今夏、40回目の「国際交流のつどい」を迎えます。西洋農業の発祥として、男爵いもや、りんご栽培、乳製品加工などをいち早く取り組んだ町は、開港都市函館の食糧基地でもあり、奥座敷として外国人が好む大沼国定公園を抱えています。

「ホームステイが社会を変える」とスローガンを抱えて、40年目、国際交流の世界は新たな道を進み始めています。全国的には、国際交流から国際協力へ進んだNGO団体もあれば、多文化共生を柱に活動する団体もあります。そんな中で、一般財団法人 北海道国際交流センター（HIF）は全く新しい第3の道を切り拓こうと考えています。

## 多様性を共に支えあう社会を目指して

ホームステイ事業を進めるうえで、ホストファミリーである農家や漁師、そして自営業だったり、福祉施設などさまざまな人たちと話すようになりました。その中で、日本国内にもさまざまな問題があることに気づききっかけとなりました。TPP、少子高齢化、後継者不足、ひきこもり、環境の汚染、あるいは子どもの貧困などさまざまな問題が身近な場所には溢れていました。一方で、海外から来た留学生と話す中で、時折、日本の社会課題が、ほかの国でも同様にあるということを知りました。HIF



1979年から始まるホームステイ事業では、書道、茶道、着物など様々な日本文化を学ぶ



2005年から函館市内の国際交流・友好団体と共に食や音楽などで世界を知る「地球まつり」は、北海道教育大学の地域プロジェクトとも連携



1986年から毎年2か月間、函館で日本語を学ぶ留学生と、函館観光のスポットで、映画のロケ地でもおなじみの「八幡坂」で記念写真

は「国境を越えて語り合おう」と、世界平和の最終ゴールを描いてきました。しかし、地球の環境問題に危うさを感じて、温暖化防止や森林保全などの活動を海外ボラ

ンティアと共に行うようになりました。国際交流のつどい発祥地の七飯町大沼は、2012年にラムサール湿地に登録される過程でも関わりました。留学生のホームステイで培った多様性を就労に悩む若者に伝えることで、就職へのサポートを行う「はこだて若者サポートステーション」も2010年から続けています。

## 新たな社会課題に向き合う 「ヘルプデスク」

2016年3月、北海道に初めて新幹線が開通し、外国人も含めて、多くの観光客が訪れるようになりました。函館山、五稜郭タワー、赤レンガ倉庫群、教会のある元町地区など多くの観光地を抱える函館には、年々、多くの外国人観光客が来ています。そんな中で、雪道で怪我をしたり、慣れない環境で病気を発症する人もいます。そんな時に安心して函館で観光していただけるようにセーフティーネットを、と考えたのが、函館市主催の「ヘルプデスク」です。専用ダイヤルに電話すると、オペレーターが24時間対応し、英語、中国語、韓国語、フランス語などの8か国語で対応できる通訳を派遣します。「ヘルプデスク」は今まで多くの傷病者をサポートし、安心・安全な函館観光に貢献してきました。HIF



2004年から、毎年七飯町大沼で行われている「大沼国際ワークキャンプ」のメンバーと環境保全の筏づくり



2016年から行われている「にこにこ子ども食堂」のハロウィンイベントの参加者たち



ヤギと羊のチーズをつくる「山田農場」の山田圭介さんが、自然に優しいライフスタイルを語る



函館市主催の「ヘルプデスク」セミナーでは、アビー・ニコラス・フリーユ氏を招いて、医療担当、外国人観光客、通訳になってのロールプレイ

が受託事業として実施している「ヘルプデスク」ですが、官民協働で行う地域貢献は、HIFとして優先的に取り組みたい事業でもあります。

## 新たな協働取組のパートナーと共に

ここであえて申し上げておきますが、HIFは民間の国際交流団体として、ホームステイや日本語教育の事業費や、寄付、会費収入を基盤として、約7割の活動費を確保して、社会課題に向き合うべき事象については、国や自治体の助成・補助を受けながら実施しています。そのような活動の中で、難民や外国人支援をテーマに取り組みむ中小企業家同友会の政策委員会との連携が生まれたり、北海道教育大学での地域プロジェクトに関わることで、学生などのユースメンバーとのネットワークもできました。

今後は、子どもの貧困や、災害時対応など、直面する深刻な社会課題にさらに向き合いながら、新たな展開を計画しています。40年前に「ホームステイで世界を変える」と言った言葉は、今では「国際的な視点で、社会課題に向き合うことで、多様性を共に支えあう社会をつくる」として、第3の道を歩み始めています。